

岩手県金融経済概況（平成 26 年 3 月）

1. 概 況

県内経済は、消費税率引き上げの影響による振れを伴いつつも、基調的には回復を続けている。

最終需要動向をみると、個人消費は、底堅く推移しているほか、住宅投資も高い伸びを続けており、これらの分野では、消費税率引き上げの影響による振れもみられている。公共投資は、増加を続けている。民間設備投資は、増加している。

生産は、持直しており、雇用、所得環境は、改善している。

2. 最終需要

(1) 個人消費

百貨店売上高（3 月）は、月下旬の気温上昇に加え、消費税率引き上げ前の駆け込み需要もあって、前年を大幅に上回った。

—— 品目別にみると、春物衣料品のほか、雑貨、身回品等ほぼ全ての品目で前年を上回った。

スーパー売上高（2 月；全店舗ベース）は、僅かながら前年を下回った。

新車登録台数（3 月）は、消費税率引き上げ前の駆け込み需要や新車投入効果もあって、引き続き前年対比で二桁の増加となった。

(2) 建設投資（公共投資、設備投資、住宅投資）

公共投資（公共工事請負額；3 月）は、高水準を維持している。

民間設備投資（短観ベース）は、2013 年度については、被災設備等の再建投資の一服等から前年度を下回ったが、2014 年度は、製造業において幅広い業種、企業で増額計画とする中、新製品対応等に伴う大型投資計画が一部にみられることもあって、前年対比で大幅増の投資計画となっている。

住宅投資（新設住宅着工戸数；2 月）は、高水準の前年を上回って推移している。

—— 持家（注文住宅）では、引き続き消費税率引き上げ前の駆け込み需要に伴う着工がみられている。

県内官民建設工事全体の出来高（建設総合統計；2月）は、高水準の前年を大幅に上回って推移している。

3. 生産動向

生産は、持ち直している。

—— 主要業種別では、震災復旧復興関連需要を背景に窯業・土石が高操業を続けているほか、内外需要の増加を反映して生産用機械、業務用機械等多くの業種で持ち直している。

4. 雇用・所得動向

雇用・所得環境は、改善している。

有効求人倍率（季節調整値；2月）は、1.10倍となった（2013年5月以降10ヵ月連続して1.00倍以上となった）。

—— 地域別（原計数）では、多くの地域で引き続き1.00倍以上となっている。職業別（同）では、専門的・技術的職業、販売の職業、サービスの職業、輸送・機械運転の職業、建設・採掘の職業等で1.00倍以上となっている。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；2月）も高水準を維持している。

名目賃金指数（1月）は、3ヵ月連続で前年比プラスとなった。

雇用者所得（県内合計値；1月）も3ヵ月連続で前年を上回っている。

5. 企業倒産

企業倒産（3月）は、5件、13.9億円と件数、金額共に前年を上回った。

6. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金、貸出は、前年を上回って推移している。貸出約定平均金利は、低下地合いを辿っている。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>